

EDINET パイロット・プログラムにおける 特定有価証券の勘定科目の取扱いについて

2007年7月11日

金融庁総務企画局企業開示課
EDINET パイロット・プログラム

投資信託受益証券タクソノミの損益及び剰余金計算書における「欠損金」、及び投資業タクソノミの投資主資本等変動計算書における「当期末処理損失」に関連する勘定科目について EDINET パイロット・プログラム上の取扱いを以下に示します。

1. 投資信託受益証券タクソノミ

(1) EDINET タクソノミの設定内容

投資信託受益証券の損益及び剰余金計算書においては、当期及び（又は）前期の剰余金の残高がマイナスの場合、「欠損金」が付された下記の勘定科目名が使用されることがあります。

EDINET タクソノミでは、名称リンクのラベルロールにおいてこれらの科目名を使用できるように設定されています。

- ・「期首欠損金」・・・「剰余金」に対する「期首負値ラベル」
- ・「期末欠損金」・・・「剰余金」に対する「期末負値ラベル」
- ・「期首剰余金（又は期首欠損金）」・・・「剰余金」に対する「期首正值負値ラベル」
- ・「期末剰余金（又は期末欠損金）」・・・「剰余金」に対する「期末正值負値ラベル」
- ・「欠損金減少額」・・・「剰余金増加額」に対する「負値ラベル」
- ・「欠損金増加額」・・・「剰余金減少額」に対する「負値ラベル」
- ・「剰余金増加額（又は欠損金減少額）」・・・「剰余金増加額」に対する「正值負値ラベル」
- ・「剰余金減少額（又は欠損金増加額）」・・・「剰余金減少額」に対する「正值負値ラベル」等

(2) 本パイロット・プログラムにおける制限事項

現在、新 EDINET における、上記（1）に示す「欠損金」を含む勘定科目のシステム上の取扱いを検討中であり、本パイロット・プログラムにおいては、これらを使用した場合へのシステム上の表示対応はしていません。

損益及び剰余金計算書における「剰余金」の残高が“負”の場合においても、「欠損金」が付された勘定科目名を使用せず、当該残高が“正”の場合と同様に「剰余金」が付された勘定科目名を使用して、財務諸表を作成してください。

(3) 本パイロット・プログラムにおける対応方法

本パイロット・プログラムにおいては、以下の設定により対応してください。

- ① 損益及び剰余金計算書における「欠損金」について

- ・企業別タクソノミの作成においては、「期首欠損金」、「期首剰余金（又は期首欠損金）」、「期末欠損金」又は「期末剰余金（又は期末欠損金）」を使用せず、「期首剰余金」及び「期末剰余金」を使用してください。
- ・報告書インスタンスの作成においては、これらに対して“負”の金額値を入力し、財務諸表を作成してください。

②損益及び剰余金計算書における「欠損金減少額」、「欠損金増加額」について

- ・企業別タクソノミの作成においては、「欠損金減少額」、「剰余金増加額（又は欠損金減少額）」、「欠損金増加額」又は「剰余金減少額（又は欠損金増加額）」を使用せず、①における対応と同様に「剰余金増加額」及び「剰余金減少額」を使用してください。
- ・報告書インスタンスの作成においては、「欠損金減少額」であった場合、「剰余金増加額」に対して“正”の金額値を入力してください。同様に、「欠損金増加額」であった場合、「剰余金減少額」に対して“正”の金額値を入力してください。

③中間損益及び剰余金計算書における取扱い

中間損益及び剰余金計算書における期首欠損金、中間欠損金、欠損金増減額等についても上記と同様の取扱いとなります。

2. 投資業タクソノミ

投資業の投資主資本等変動計算書における「当期末処分利益」の期首及び期末の残高が“負”の場合においても、上記の「1. 投資信託受益証券タクソノミ」と同様の取扱いとなりますので、以下の設定により対応してください。

- ・企業別タクソノミの作成においては、「当期末処理損失期首残高」（期首負値ラベル）、「当期末処理損失期末残高」（期末負値ラベル）を使用せず、「当期末処分利益期首残高」（期首ラベル）・「当期末処分利益期末残高」（期末ラベル）を使用してください。
- ・報告書インスタンスの作成においては、これらに対して“負”の金額値を入力してください。

3. 本パイロット・プログラムにおける対応例

「表1」は、投資信託受益証券における「欠損金」がある場合の損益及び剰余金計算書の開示例の一部です。「表1」に対する企業別タクソノミ及び報告書インスタンスは、「表2」のように作成します。

なお、「表3」は、「表2」の設定をした場合のEDINETにおける表示例です。

表1. 剰余金残高が“負”の場合の開示例

	勘定科目名	記載値 (単位：円)
	当期純利益	2,000
①	期首欠損金	12,000

②	欠損金減少額	4,000
③	(一部解約に伴う欠損金減少額)	(4,000)
④	欠損金増加額	2,000
⑤	(一部解約に伴う欠損金増加額)	(2,000)
	分配金	1,000
⑥	期末欠損金	9,000

表2. 企業別タクソノミ及び報告書インスタンスの設定値

	企業別タクソノミで 設定するラベル	報告書インスタンス の入力金額値	説明
	当期純利益	2,000	
①	期首剰余金 (期首ラベル)	-12,000	・「期首負値ラベル」、「期首正值負値ラベル」を使用しないでください。 ・“負”の値を入力します。
②	剰余金増加額 (標準ラベル)	4,000	・“正”の値を入力します。
③	(一部解約に伴う剰余金増加額) (標準ラベル)	4,000	・“正”の値を入力します。 ・入力に括弧()は不要です。
④	剰余金減少額 (標準ラベル)	2,000	・“正”の値を入力します。
⑤	(一部解約に伴う剰余金減少額) (標準ラベル)	2,000	・“正”の値を入力します。 ・入力に括弧()は不要です。
	分配金	1,000	・“正”の値を入力します。
⑥	期末剰余金 (期末ラベル)	-9,000	・「期末負値ラベル」、「期末正值負値ラベル」を使用しないでください。 ・“負”の値を入力します。

表3. 表示例

	勘定科目名	表示値
	当期純利益	2,000
①	期首剰余金	△12,000
②	剰余金増加額	4,000
③	(一部解約に伴う剰余金増加額)	4,000
④	剰余金減少額	2,000
⑤	(一部解約に伴う剰余金減少額)	2,000
	分配金	1,000
⑥	期末剰余金	△9,000